

令和6年度県立高校魅力アップ推進事業

① 「芸術を通じた国際交流①」

- 1 日 時 令和6年5月5日（月）9時30～13時00分
- 2 講 師 肥田 昌明（洋画家）
- 3 参加者 生徒26名（1、2、3年次 美術選択者）
- 4 内 容

- ・講演 体験談(アメリカでの活動)

アメリカの美術館における研修についての話を聞きました。

- ・実技指導

- 「風景スケッチ（着彩）」

明石公園においてスケッチをしました。スケッチの場所の決め方や描く時の構図の取り方の講習を聞いた後、各自描きたい場所へ移動し、スケッチを行いました。下絵ができれば、水彩絵の具で色を付けました。肥田先生は生徒たちが描いている場所を回り、色の混ぜ方や塗り方まで丁寧に指導されました。



- ・感想

天気がとてもよくて気持ちよく写生をすることができました。肥田先生にいろいろと丁寧に指導していただき、描きやすかったです。

最後の合評会では、みんなうまく描いていたので、次回また頑張って描きたいと思いました。

② 「芸術を通じた国際交流②」

- 1 日 時 令和6年12月2日（月）10時50分～12時20分
- 2 講 師 上村（山下） 克彦 氏（現代美術作家）
- 3 参加者 生徒15名（2年次素描選択者）
- 4 内 容

- ・講演 韓国における芸術活動について

現地での作品制作の様子や韓国の作家との交流活動についての話を聞きました。

- ・実技指導①

- テーマ「石をさわってその感触を鉛筆で描く。」

- 石をさわって、その感触をもとに石を想像しながら画用紙に石の形を鉛筆で描きました。

- 実物を見て描くのではなく、さわった感覚で描くので実物とは全く違う形になり、出来上がった作品は実物とは違う石の形が現れました。



・感想

石の感触だけで想像して描くのははじめての経験でしたが、感覚を研ぎ澄まして描きました。思った形と違うかたちが表れて驚きました。感覚で描く絵は非常に面白かったです。

・実技指導②

テーマ「石のまわりを鉛筆でなぞっていく。」

石を画用紙に置き、そのまわりを鉛筆でひたすらなぞっていく作業をしました。石のまわりをなぞっていく時には石に鉛筆が当たって石が動いてもそのままなぞっていくので、どんどん円がおおきくなっていくもありました。



・感想

石のまわりをなぞるだけのことでしたが、何度も何度も円を描いていくことで、思ったのと違う形ができてきたことがとても新鮮でした。鉛筆に石が当たり動いていくのも面白かったです。

③ 「芸術を通じた国際交流③」

1 日 時 令和7年1月16日(木) 12:30～13:55

2 講 師 上村(山下) 克彦 氏(現代美術作家)

3 参加者 素描選択者15名(2年次素描選択者)

4 内 容

・講演 アメリカにおける芸術活動について

現地での作品制作の様子やアメリカの作家との交流活動についての話を聞きました。

・実技指導①

テーマ「封筒の中に小石を入れて、その封筒を触り、中の小石を感じながら封筒と石を描く。」
封筒の中に入った小石を感じながら、見えない小石と封筒を描きました。見えない形と見えている形を描くことで、想像の形(小石)と実物の形(封筒)が同じ画面にある不思議さを感じることができました。



・感想

封筒の中には、事前に山下先生が墨で円を描かれていました。山下先生の話では、この円は封筒の中の宇宙を表しているそうで、山下先生の描かれた宇宙の中の小石を感じながら描くことは、壮大な内容だなと思いました。

・実技指導②

テーマ「石を1つ取り、その石を見ないで触るだけで描く。仕上げでは描いた石を同じ画用紙の画面にボンドで貼り完成させる。」

石をさわって、その感触だけで鉛筆で画用紙に描きました。描き終わった後に、実際にさわって描いた石をボンドで画用紙に貼りました。貼る位置は、画面の中でいいと思う場所に貼り付けました。



・感想

感触だけで描くことを何度か実践することで、はじめよりスムーズに描くことができました。最後に画面に石を貼ると、また違った画面になり、作品らしくなり嬉しくなりました。

④ 「芸術を通じた国際交流④」

1 日時 令和7年1月21日(火) 14:50～16:30

2 講師 永津 照見 氏(画家)

3 参加者 美術選択者18名(2年次)

4 内容

・講演 ベルギーやフランスにおける留学体験について

スライドを見ながらベルギーやフランスに留学していた時の制作の様子のお話を聞きました。ベルギーにおいてのエッチングなどの版画の制作についての話を聞きました。フランスでは油絵で家などの風景を描かれた話を聞きました。

・実技指導

テーマ「鉛筆(6B)による「顔」のクロッキー」

まずは、永津先生がデモンストレーションとして、モデルを前にして描かれました。描く時には顔に正中線を描き、目と鼻口の位置を決めてから描くとよいことなど、描き方についてのコ

ツを話されました。

その後、1人が15分間モデルになり、6Bの鉛筆で顔をクロッキーしました。描いている最中にも、永津先生は一人ひとりの作品を見て回り、アドバイスをされていました。



15分間の制作が終わった後は、全員の作品を並べて、作品の講評会をしました。講評会では鉛筆の使い方や構図の取り方など、具体的な指導をされました。



・感想

今回は顔をアップにして描いたのですが、似顔絵とは違い描くのはなかなか難しかったです。しかし、描き方のポイントをいろいろと指導していただき、また実際に作品に手を入れていただいたのでどのように描けばいいのかわりました。また、顔を描きたいなと思いました。